

2010/3/28 第二回獣医学教育改革シンポジウム



獣医学教育モデルコアカリキュラムの目指すもの — 応用獣医学分野/臨床獣医学分野（産業動物） —

酪農学園大学獣医学部
食品衛生学ユニット
田村 豊

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム設定の経緯

●2008/11/17

獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議の設置

(座長: 日本学術会議 唐木英明先生)

- ・獣医学教育をめぐる環境の変化に対応した獣医学教育のあり方を調査・研究
- ・臨床教育や公衆衛生教育の充実が必要

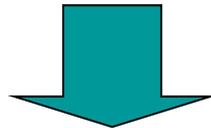
●2009/2/12

教育内容に関する小委員会の設置(委員長; 東京大学 吉川泰弘教授)

- ・大学における獣医学教育の状況を分析し、必要とされる教育内容の検討

＜応用獣医学分野＞

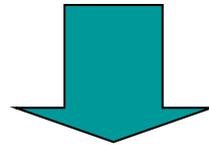
- ・比較的新しい科目や内容が高度化している科目(野生動物学、獣医疫学、環境衛生学など)は大学により教育内容にバラツキがあり不十分
- ・応用分野の実習科目の教育内容の充実度は低い
- ・公衆衛生学関連の現場における実習が困難で実務教育が不十分



講義科目や実習科目に関する教育内容の充実が必要

＜臨床獣医学(産業動物)分野＞

- ・教育内容が不十分
- ・産業動物臨床学(特に馬の疾病、ミツバチの疾病)の教育内容が不十分
- ・産業動物として牛が中心
- ・群管理の教育が不十分



産業動物臨床学の充実
実習で取扱う動物種の拡大

今後、大学教育の質保証の観点から、共通的教育内容を整理するとともに質保証の在り方の具体的検討

●2009/7/1～2011/3/31

文部科学省先導の大学改革推進委託事業

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに関する調査研究

(総括責任者;東京大学 尾崎 博教授)

応用獣医学/臨床獣医学(産業動物)責任者; 酪農大 田村 豊

<応用獣医学分野科目担当者>

- 野生動物学(○坪田敏男(北大)、鈴木正嗣(岐阜大)、羽山伸一(日獣大))
- 毒性学(○佐藤晃一(山口大)、石塚真由美(北大)、佐々木卓士(北里大))
- 動物衛生学(○高井伸二(北里大)、末吉益雄(宮崎大)、渡会雅久(山口大))
- 公衆衛生学総論(○三澤尚明(宮崎大)、武士甲一(帯広)、丸山総一(日大))
- 食品衛生学(○伊藤喜久治(東大)、中馬猛久(鹿児島大)、藤川 浩(農工大))
- 環境衛生学(○植田富貴子(日獣大)、石黒直隆(岐阜大)、伊藤壽啓(鳥取大))
- 人獣共通感染症学(○重茂克彦(岩手大)、苅和宏明(北大)、村松康和(酪農大))
- 獣医疫学(○林谷秀樹(農工大)、筒井俊之(動衛研)、加藤行男(麻布))

<臨床獣医学(産業動物)分野科目担当者>

- 産業動物臨床学(○小岩政照(酪農大)、山岸則夫(岩手大)、田島誉士(北大))
- 臨床繁殖学(○片桐成二(酪農大)、小島敏之(鹿大)、大澤健司(岩手大))

○は科目責任者

モデル・コア・カリキュラムの目指すもの

- 獣医学教育として必要不可欠な教育内容を精選し、到達目標を明示

<応用獣医学>

- ・ 比較的新しい科目や高度化している科目の充実
- ・ 実習科目の教育内容の充実

国際通用性のある応用獣医学教育の確立

<臨床獣医学(産業動物)>

- ・ 産業動物臨床学の充実
- ・ 群管理の教育の充実
- ・ 対象動物種の拡大

バランスのとれた臨床獣医学教育の確立

コア・カリキュラム作成に当たっての確認事項

1. 1単位あたり20項目程度
2. 小委員会で検討した教育内容を参考
3. 応用獣医学分野の各科目で関連する法律も収載
総論は「獣医事法」に収載
4. 「動物衛生学」に伴侶動物、展示動物、特用家畜、使役動物に関する記述を収載
5. 「野生動物学」を2単位として教育内容を充実
6. 「産業動物臨床学」は総論的事項および疾病予防と生産性の向上に必要な予防対策を主に記述し、各論については臨床各科目で記述
7. 「産業動物臨床学」で牛、馬、豚、鶏、ミツバチに関する記述を収載

今後の課題

1. 講義科目コア・カリキュラムの完成
 - ・一次案→意見聴取(~5/28)→二次案(9月末)→意見聴取→最終版
2. 実習科目コア・カリキュラムの検討
 - ・実習科目の設定
 - ・参加型公衆衛生実習の検討

.....
3. 共通テキストの検討
4. 共用試験の検討